

2018/12/02

「信じる者は幸い」

～信じるとは～

「信仰」とは何でしょうか。よく自分が納得できないことを信じることはできないと言う人がいます。しかし、信仰とは自分が納得することではありません。イエス・キリストは、私たちの知恵や知識では納得できない方として来られました。イエス様はご自分を「つまずきの石」と呼んでおられます。つまり、つまずきがあるから、信仰が必要になるわけです。もし神が、私たちが考えているとおりの神で、つまずきがなかったら、信仰は成立しません。私たちの知恵や知識で理解することが不可能であるからこそ、信じるしかないのです。それが信仰というものです。

■見ずに信じる者は幸いです

「十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らと一しょにいなかった。それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た。」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。」と言った。

八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らと一しょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたがたにあるように。」と言われた。それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

(ヨハネ 20:24-29)

誰もがイエス様は死んだと思っている中、イエス様は復活し、弟子たちの前に現れました。しかし、その場にいなかったトマスは、「そんなことはあり得ない」と信じませんでした。これが私たちの姿です。人は、自分が納得しないことを信じようとしません。しかし、私たちの神は、納得によって信じる神ではないのです。「見ずに信じる者は幸いです。」これが神の答えです。

多くの人が、このイエス・キリストの復活につまずきます。確かに常識ではあり得ないことですが、私たちはそれを信じています。信仰とは、自分の知恵で納得できたら信じるものではなく、イエス様がそう言っておられるから信じるということです。それが信仰にとって大切なことです。

■イエス様は信仰のためにつまずきの石とられた

考えてみると、イエス様の生涯は、スタートからつまずきの連続です。まず、処女から子どもが生まれるなどあり得ません。そして、イエス・キリストは、人々が待ち望んでいた神の姿ともまったく異なりました。人々は、自分たちの望みをかなえてくださる王としての神を期待していたのですが、自称「神」というこの青年は、低い地位である大工の息子だった上に、娼婦や取税人や罪人たちと好んで交わりました。人々が、神がそんな人たちと交わるはずがないと考えたのも無理はありません。さらに、この方は様々な奇跡を行ないました。五千人に食べものを与え、目の見えない人・耳の聞こえない人・足の不自由な人を癒し、その他、数多くの奇跡を行ないました。これらがまた、そんなことができるわけがないと、人々のつまずきになりました。つまり、神は私たちが納得させるおつもりなど毛頭なかったことがわかります。神はただ、つまずくか信じるかだけを問うておられるのです。

ある時イエス様は、「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、滅びることがない。」とメッセージなさいました（ヨハネ 6:54）。すると、この言葉に多くの弟子たちがつまずき、去って行きました。イエス様は、弟子たちに対しても、つまずくのか、信じるのかを、常に問うていたのです。

今日、クリスチャンと言われる人たちにとって、「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む」という言葉は、つまずきでもなんでもありません。すべてのクリスチャンがこの言葉を受け取り、聖餐式が行われています。それは、イエスの体を食べたことが証明できたからでも、理解したからではありません。信じたからです。イエス様の言葉を信じたから、つまずきを克服できたのです。

人は不思議な出来事に対して、「そんなことはありえない。もしそれを証明してくれたら、私は信じる」と言いますが、それは信仰ではありません。説得によってつまずきを克服しようとしても、意味がありません。つまずきを克服する唯一の道は信じることです。

■つまずきを克服する

人間と人間との関係にも同じことが言えます。私たちは人につまずいて人を裁きます。「なぜあんなことをするのか」「信じられない」「ゆるせない」といったつまずきが、争いを生じさせます。国同士の争いもそうです。互いにつまずいて、争いが生じるのです。このつまずきを克服するため、お互いに納得しようと努力をしますが、これは正しい方法ではありません。私たちがつまずきを克服できる唯一の方法は、信じることだからです。相手信じなければ、つまずきを克服することはできません。

聖書は、「騙されたのなら騙されていなさい」「迫害されるなら迫害されていなさい」と、どこまでも相手を信じることを教えています。聖書が教える愛とは、信じることです。相手を信頼し、無条件で信じるのが愛なのです。

神は私たちに対して、とにかく神を信じなさい、そして、互いに信じ合いなさいと教え、さらに神様ご自身も、私たちのことを無条件で信じ、愛しておられます。神は私たちが良い行いをしたら救うとは、一言も言っておられません。あなたがどんな罪人であろうと、あな

たの行いがどうであろうと私はあなたにつまずかない、あなたを愛すると言っておられるのです。このとてつもない愛を、「全き愛」と言います。

宗教改革以来、キリスト教の中心の柱は信仰です。「信じるだけで救われる」と、神はとにかく信じることを教えておられます。私たちが信仰を使って神と接しているかどうか、今一度、その柱である信仰とは何かを思い出す必要があります。神は私たちに何を信じるように教えておられるのでしょうか。

■私たちが信じるべきこと

1. あなたは良きもの

「私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」(エペソ 2:10)

私たちは神の作品であって、良きものとして造られました。しかし、私たちは自分の現実を見て、「なぜこんなことをしてしまったのか」「なぜ自分はできないのか」と言って、自分につまずきます。人は神につまずくだけでなく、自分にもつまずくのです。

自分の現実を見て、私たちは「自分はダメな者」だという結論を出しますが、聖書には、あなたは良きものとして造られたとはっきり書かれています。本来の姿が良きものであるにも関わらず、今そうでないならば、それは病気ということになります。あくまでも人は良きものであり、人の罪は本来備わっていたものではなく、後からかかった病気であると聖書はとらえているのです。

近年の心理学、そしてカウンセリングは、「人は良きもの」という、聖書と同じ立場に立ちます。カウンセリングは、相手を良きものにとらえ、苦しみを共感し、重荷を下ろさせて心を癒すものです。心理学では、人は良きものであるにもかかわらず、人は人を○か×、つまり、ダメな者か良きものかの二択しか判断することができず、すべての人は自分のことをダメなものだにとらえていると言われます。それゆえ、ダメなものを良くすることが教育だと思ひ込み、「×が○になるように頑張りましょう」つまり、「今のあなたは×だから、頑張って○になりなさい」、さらに「ごほうびをあげるから頑張り」「罰を受けなくなかったら頑張り」というような賞罰教育が長年行われてきました。その結果、私たちは、今も、自分も相手もダメなのだという思いが根強く、日常的に人を責めることを繰り返しています。しかし、罪を犯すのは病気ですから、責めることでは、病気を取り除くことはできません。

あなたは、自分の行いを見て、自分をダメな者だと思っていないでしょうか。あるいは、他の人の行いを見て、ダメなヤツだと否定していないでしょうか。人につまずき、神につまずく人は、自分につまずいているのです。ですから、自分は良きものだと思えることが基本になるのです。

2. 罪は無条件で赦される

「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」（Iヨハネ 1:9）

無条件で赦されるのですから、罪を言い表せばよいのですが、多くの人が「そんなことはありえない」と言って、つまりきます。このことを信じなければなりません。なぜ無条件で赦されるのか、それは罪が病気だからです。罪は、裁く対象ではなく、癒しの対象です。神にとって「癒す」と「赦す」は同じ意味です。

「重荷を負うものは私のところに来なさい。」とイエス・キリストは言われました（マタイ 11:28）。「重荷」というと、あなたは何を思い浮かべるでしょうか。経済的な問題であったり、人間関係であったり、病気であったり、人によって異なります。これらの重荷をイエス様の前に差し出すとどうなるのでしょうか。ある時、中風の青年をいやしていただきたいと願う友人たちが、天井をはがして彼をイエス様の前に吊り降ろしたところ、イエス様は青年に向かって「あなたの罪は赦された」と言われました。これを聞いたパリサイ人は、罪を赦すとは何事だと言って怒ります。あなたが自分の重荷をイエス様の前に差し出す時も、イエス様は、なんと「あなたの罪は赦された」と言われるのです。成功したいと願ってご利益を求める者に対しても、何のご利益もなく、ただ「罪が赦された」と言われます。なぜイエス様は、わざわざ人がつまづくようなことを言うのでしょうか。

もちろん、イエス様は病気を癒し、問題を解決することもなさいます。しかし、重荷を取り除くと言って第一にすることは、罪の赦しです。それは、私たちの苦しみやつらさは、自分で気づかないだけで、すべて罪と連動しているからです。

私たちの不安の原因はすべて罪にあると、キルケゴールは言いました。彼は、不安とは、神からの愛が見えず永遠性が見えないことによって生じるということ、哲学的に弁証し、罪とは不安だということ、つまり、イエス様が「あなたの罪は赦された」と言われるのは、「あなたの不安は癒された」という意味なのです。

経済的な問題も、人間関係も、病気も、それらをつらいと感じる本当の原因は不安にあります。この不安は罪に連動しているため、究極の癒しとは、罪を取り除くことになるのです。罪の赦しを信じるとは、「それでも神はあなたを愛している」と信じることです。ところが、私たちは、罪には罰があるべきだと思い込んでいるために、なかなかそれを信じることができないのです。しかし、これが信じられると、人を裁いたり、自分を裁いたりすることがなくなっていく、ただ神に助けを乞うことができるようになります。

3. 神はあなたの味方

「私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護して下さる方がいます。それは、義なるイエス・キリストです。」（Iヨハネ 2:1）

神は、裁く方でなく、弁護する方です。その弁護が十字架です。何があっても、神はあなたの味方であり、あなたを弁護し擁護する方だということが信じられるようになると、平安を得られます。これが神と共に生きるということです。

イエス・キリストは、私たちの想像をはるかに超えた方です。その方は、私たちにとってはつまずき、つまり信じるしかない方です。神は私たちに、信じるのが希望をもたらし、愛を生むということを教えてくださいました。何があっても、あなたは見捨てられることなく、擁護してくださる方がいることを信じましょう。神に対して、つまずくのではなく、信じる者になりましょう。証拠を見たり論証されたりした結果、納得出来たら信じるというのは、信仰ではありません。神の言われることは、確かに私たちには理解できず、つまずきでしかありません。だから、信じて乗り越えるしかないのです。

聖書は、信仰を作ったのは神であり、信仰の創始者である神に目を向けなさいと語っています。そして、その信仰を通して、さらに神に近づくように聖書は教えています。神に近づくのは信仰でしかないということを、今一度理解し、信じるのがいかに大切かを心に留めましょう。